

農場における月齢確認及び飼料規制の遵守状況

農場名		1	2	3	4	5
経営形態		酪農・育成・フィードロット	繁殖・フィードロット	フィードロット	フィードロット	繁殖
飼料規制の遵守状況	反すう動物への給与を禁止された原料を使用した飼料を牛に給与していない	○	○	○	○	○
	飼料を保管するコンテナや倉庫が専用化されている	○	○	○	○	○
	直近のFDAIによる検査の結果、飼料規制への不適合事例がなかった		○	○		
飼料給与に関する実態	購入した飼料が飼料規制を遵守したものであるという契約や宣誓書がある	×	○	○	○	×
	飼料の購入、使用の記録が保存されている	○	○	○	○	○
	飼料の自家配合の記録がある	○	×	○	○	
	豚肉骨粉・鶏肉骨粉等の動物性たん白を給与していない	○	○	○	○	○
	養鶏残さを給与していない	○	○	○	○	○
	周辺の農場で養鶏残さを給与していない	○	○	○	○	○
	使用している動物性油脂の不溶性不純物が0.15%以下である	○	○	○		
	出荷した牛が飼料規制を遵守して飼養したものであるかどうかについて取引先との契約や宣誓書がある	○	○	○	○	○
月齢確認	参加しているプログラムの種類	PVP	PVP	PVP	QSA	QSA
	適正に月齢が記録されている	○	○	○	○	○
	月齢の記録の単位	個体毎	群単位	群単位	群単位	個体毎
	繁殖経営から肥育素牛を導入する際に月齢を証明する宣誓書等を受け取っている			○	○	
	出荷の際に月齢を証明する宣誓書を添付している	○	○	○	○	○

注：米側とのミーティングにおいて、施設が特定できる情報は非公表との要請があった。

飼料工場における飼料規制の遵守状況等

工場名		1	2
飼料規制の遵守状況	反すう動物への給与を禁止された原料を反すう動物用飼料に用いていない	○	○
	原料を運搬するコンテナが専用化又は洗浄されている	○	○
	反すう動物への給与を禁止された原料を用いた反すう動物以外用の製品を製造している場合、製造ラインは専用化されている		
	反すう動物への給与を禁止された原料が含まれている製品には反すう動物に給与してはいけない旨のラベルが付けられている		
	製品を運搬するコンテナが専用化又は洗浄されている	○	○
	直近のFDAによる検査の結果、飼料規制への不適合事例がなかった	○	○
飼料製造に関する実態	反すう動物用以外の飼料にも反すう動物への給与を禁止された原料を用いていない	○	○
	反すう動物用の飼料に反すう動物への給与を禁止された原料以外の動物性たん白質を用いていない	○	×
	出荷記録が残されている	○	○
	出荷記録や受け取った原料、コンテナの洗浄、生産の記録が保存されている	○	○
	原料が飼料規制を遵守したものであるかという契約や宣誓書がある	○	○
	契約や宣誓書に加えて、原料に反すう動物への給与を禁止された原料が含まれていないことを自らが確認している	○	○
	使用している動物性油脂の不溶性不純物が0.15%以下であることを確認している	○	×
	製品が飼料規制を遵守したものであることについて取引先との契約や宣誓書がある	○	○

注:米側とのミーティングにおいて、施設が特定できる情報は非公表との要請があった。

レンダリング工場における飼料規制の遵守状況等

工場名		1
飼料規制の遵守状況	受け取った原料を記録している	○
	反すう動物への給与を禁止された原料を用いた製品を製造している場合、製造ラインが専用化されている	○
	反すう動物への給与を禁止された原料が含まれている製品には牛やほ乳動物に給与できない旨の記載をしている	○
	出荷記録が残されている	○
	製品を運搬するコンテナが専用化又は洗浄されている	○
	出荷記録や受け取った原料、コンテナの洗浄、生産の記録が1年以上保存されている	○
	直近のFDAによる検査の結果、飼料規制への不適合事例がなかった	○
飼料製造実態に関する	製造される動物性油脂中の不溶性不純物が0.15%以下である	○
	製品が飼料規制を遵守したものであるかどうかについて取引先との契約や宣誓書がある	○

注：米側とのミーティングにおいて、施設が特定できる情報は非公表との要請があった。

施設概要

従事者数	と畜	従事者数118名(品質管理担当者数 3 名)
(品質管理担当者数)	カット	従事者数275名(品質管理担当者数11名)
	清掃等	従事者数36 名(2)
シフト	と畜	シフト/日(6 :00 ~ 14 :30)
(時間帯)	カット	シフト/日(6 : 00 ~ 14 :30)
	清掃等	シフト/日(16 :00 ~ 0 : 30)
操業日		5日/週
種類	去勢牛	有り
	未経産牛	有り
	経産牛	無し
輸入牛の搬入	☐ 有 ☐ カナダ・2005年	頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))
	・2006年	頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))
	☐ 有 ☐ メキシコ・2005年	頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))
	・2006年	頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))
	☐ 有 ☐ その他第3清浄国・2005年	頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))
	・2006年	頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))
他施設からの枝肉の搬入	☐ 有	
平均生体重量		562.5kg
平均枝肉重量		351kg
枝肉冷却時間		48時間
輸出製品の種類		骨無し部分牛肉、牛内臓(対日 舌、横隔膜)
輸出プログラム以外の認定プログラム	☐ 有	
日本向け輸出プログラムの稼働体制		専用 月毎 日毎 ライン毎 ☒ シフト制
月齢判別方法(対日輸出実績)	出生記録 ☐ 無 ☒ 有	(2005年12月~2006年1月の延べ頭数 頭)
	成熟度 ☐ 無 ☒ 有	☐ (2005年12月15日~2006年1月20日の延べ頭数 頭)
		☐ 格付官総数1名(うち日本向けA40の証明資格のある者 1名)
受入農場(出生記録による月齢確認可能)		対日プログラム認定 ☒ 独自(PVP/QSA)
検査官	食肉検査官	人数
		配置
	獣医官	人数
FSISからのnon-compliance record 交付歴		2005年:BSE規制関係NR (0 件)、その他のNR 15件(改善済み) 2006年:BSE規制関係NR (0件)、その他のNR 10件(改善済み)
神経(CNS)症状牛の頭数		2005年 0件、2006年 0件
歩行困難牛の頭数(受入時)		2005年 0件、2006年 0件
歩行困難牛の頭数(生体検査後)		2005年 0件、2006年 0件
レンダリング(付属施設がある場合)	業務の形態(FDAのチェックシートにおける分類を転記、複数選択可)	1 レンダラー 2 プロテイン・ブレNDER 3 トランスポーター 4 その他()
	取扱い品目*1	禁止原料 非禁止原料
	原料の入手先*2	
	製品の販売先	
	輸送方法	原料*2 製品
	交差汚染対策*3	製造設備 輸送容器
	FDA等の査察	査察回数
		結果

注:米側とのミーティングにおいて、施設が特定できる情報(名称、所在地、施設番号、責任者名等)は非公表との要請があった。

施設概要

従事者数	と畜	従事者数265名(品質管理担当者数 名)	
(品質管理担当者数)	カット	従事者数355名(品質管理担当者数 名)	
	清掃等	従事者数30名	
シフト	と畜	シフト/日(6:00 ~ 16:00)	
(時間帯)	カット	シフト/日(6:00 ~ 14:30)	
	清掃等	シフト/日(と畜18:00 ~ 5:15)	
操業日		6日まで	
種類	去勢牛	有り	
	未經産牛	有り	
	経産牛	有り	
輸入牛の搬入		☐ 有 ☐ カナダ・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))	
		☐ 有 ☐ メキシコ・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))	
		☐ 有 ☐ その他第3清浄国・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))	
他施設からの枝肉の搬入		☐ 有 ☐ 無	
平均生体重量		590kg	
平均枝肉重量		363kg	
枝肉冷却時間		48時間	
輸出製品の種類		ラウンド、チャックカット	
輸出プログラム以外の認定プログラム		☐ 有 ☐ 無	
日本向け輸出プログラムの稼働体制		専用 月毎 日毎 ライン毎 ☒ シフト制	
月齢判別方法(対日輸出実績)		出生記録 ☐ 有 ☐ 無 (2005年12月～2006年1月の延べ頭数 頭)	
		成熟度 ☐ 有 ☐ 無 ☐ (2005年12月15日～2006年1月20日の延べ頭数 頭)	
		☐ 格付官総数 2名(うち日本向けA40の証明資格のある者 2名)	
受入農場(出生記録による月齢確認可能)		対日プログラム認定 ☒ 独自(PVP/QSA)	
検査官	食肉検査官	人数 13 配置 オンライン 11 オフライン 2	
	獣医官	人数 2	
FSISからのnon-compliance record 交付歴		2005年:BSE規制関係NR 1件(改善済み)、その他のNR 39件(改善済み) 2006年:BSE規制関係NR 0件、その他のNR20件(改善済み)	
神経(CNS)症状牛の頭数		2005年 0頭、2006年 (4頭、うちBSE検査頭数 4頭)	
歩行困難牛の頭数(受入時)		2005年 (133頭、うちBSE検査頭数 133頭)、2006年 (189頭、うちBSE検査頭数 189頭)	
歩行困難牛の頭数(生体検査後)		2005年 (74頭、うちBSE検査頭数 74頭)、2006年 (46頭、うちBSE検査頭数 46頭)	
レンダリング(付属施設がある場合)	業務の形態(FDAのチェックシートにおける分類を転記、複数選択可)		☒ レンダラー ☐ プロテイン・レンダラー ☐ トランスポーター ☐ その他()
	取扱い品目*1	禁止原料	肉骨粉
		非禁止原料	タロー、血粉
	原料の入手先*2		隣接プラント
	製品の販売先		肥料、飼料工場
	輸送方法	原料*2	} 専用の台車とトラック
		製品	
	交差汚染対策*3	製造設備	} 牛原料の使用
		輸送容器	
	FDA等の査察	査察回数	☐ 2005年 回、 ☐ 2006年 回 毎年
結果		☐ 2005年 (違反歴無し) ☐ 2006年 (違反歴無し)	

注:米側とのミーティングにおいて、施設が特定できる情報(名称、所在地、施設番号、責任者名等)は非公表との要請があった。

施設概要

従事者数	と畜	従事者数280名(品質管理担当者数 名)
(品質管理担当者数)	カット	従事者数600名(品質管理担当者数 名)
	清掃等	従事者数50名
シフト	と畜	シフト/日(5:30 ~ 15:30)
(時間帯)	カット	シフト/日(5:00 ~ 15:00)
	清掃等	シフト/日(16:00 ~ 4:00)
操業日		6日
種類	去勢牛	有り
	未經産牛	有り
	経産牛	無し
輸入牛の搬入		☒ 有 ☐ カナダ・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ☒ 有 ☐ メキシコ・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ☒ 有 ☐ その他第3清浄国・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))
他施設からの枝肉の搬入		☒ 有
平均生体重量		612kg
平均枝肉重量		386kg
枝肉冷却時間		48時間
輸出品の種類		牛肉
輸出プログラム以外の認定プログラム		☒ 有
日本向け輸出プログラムの稼働体制		専用 月毎 ☒ 日毎 ライン毎 シフト制
月齢判別方法(対日輸出実績)		出生記録 無 ☒ 有 (2005年12月~2006年1月の延べ頭数 頭) 成熟度 無 ☒ 有 ☐ (2005年12月15日~2006年1月20日の延べ頭数 頭) ☐ 格付官総数 2名(うち日本向けA40の証明資格のある者 2名)
受入農場(出生記録による月齢確認可能)		☒ 対日プログラム認定 独自(PVP/QSA)
検査官	食肉検査官	人数 8
		配置 オンライン オフライン1
	獣医官	人数 1
FSISからのnon-compliance record 交付歴		2005年:BSE規制関係NR(3件、改善済み)、その他のNR(172件、改善済み) 2006年:BSE規制関係NR(2件、改善済み)、その他のNR(27件、改善済み)
神経(CNS)症状牛の頭数		2005年 0 頭、2006年 0頭
歩行困難牛の頭数(受入時)		2005年 (頭数 6頭、うちBSE検査頭数 6頭)、2006年 (頭数 5頭、うちBSE検査頭数 5頭)
歩行困難牛の頭数(生体検査後)		2005年 -、2006年 -
レンダリング(付属施設がある場合)	業務の形態(FDAのチェックシートにおける分類を転記、複数選択可)	☒ レンダラー ☒ プロテイン・ブレNDER ☒ トランスפורター ☐ その他()
	取扱い品目*1	禁止原料
		非禁止原料 牛肉
	原料の入手先*2	N/A
	製品の販売先	
	輸送方法	原料*2 N/A 製品 専用の台車とトラック
	交差汚染対策*3	製造設備 専用ライン 輸送容器 専用ライン
	FDA等の査察	査察回数 ☐ 2005年 回、 ☐ 2006年 回
		結果 ☐ 2005年 (違反歴無し) ☐ 2006年 (違反歴無し)

注:米側とのミーティングにおいて、施設が特定できる情報(名称、所在地、施設番号、責任者名等)は非公表との要請があった。

施設概要

従事者数	と畜	従事者数180名(品質管理担当者数14名)	
(品質管理担当者数)	カット	従事者数850名(品質管理担当者数21名)	
	清掃等	従事者数180名(品質管理担当者数)(契約社員)	
シフト	と畜	シフト/日(6 :15 ~ 14 : 45)	
(時間帯)	カット	シフト/日(6 :00 ~ 14 : 30)	
	清掃等	シフト/日(23 :00 ~ 4 :00)	
操業日		6日/週	
種類	去勢牛	有り	
	未経産牛	有り	
	経産牛	無し	
輸入牛の搬入		無 ☒ 有 ☐ カナダ・2005年 30,788 頭/年 (うち日本向け 0 頭(延べ頭数)) ・2006年 4,753 頭/年 (うち日本向け 0 頭(延べ頭数)) 無 ☒ 有 ☐ メキシコ・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))(ただし、と畜場直行牛の受入れ無し。) ・2006年 頭/年 (うち日本向け 頭(延べ頭数))(ただし、と畜場直行牛の受入れ無し。) ☒ 有 ☐ その他第3清浄国・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年 (うち日本向け 頭(延べ頭数))	
他施設からの枝肉の搬入		☒ 有 ☐ 無	
平均生体重量		571.5kg	
平均枝肉重量		364.5kg	
枝肉冷却時間		48時間	
輸出製品の種類		骨無し牛肉、骨付き牛肉、内臓	
輸出プログラム以外の認定プログラム		☒ 有 ☐ 無	
日本向け輸出プログラムの稼働体制		専用 月毎 日毎 ライン毎 シフト制 (開始時のみ)	
月齢判別方法(対日輸出実績)		出生記録 無 ☒ 有 ☐ (2005年12月～2006年1月の延べ頭数 2350頭) 成熟度 無 ☒ 有 ☐ (2005年12月15日～2006年1月20日の延べ頭数 4620 頭) □格付官総数 7名(うち日本向けA40の証明資格のある者 7名)	
受入農場 (出生記録による月齢確認可能)		対日プログラム認定 独自(PVP/QSA)	
検査官	食肉検査官	人数 19	
		配置 オンライン 14 オフライン 5	
	獣医官	人数 1	
FSISからのnon-compliance record 交付歴		2005年:BSE規制関係NR(5件 改善済み)、その他のNR(54件 改善済み) 2006年:BSE規制関係NR(0件)、その他のNR(54件 改善済み)	
神経(CNS)症状牛の頭数		2005年(頭数 0頭、うちBSE検査頭数)、2006年(頭数 0頭、うちBSE検査頭数)	
歩行困難牛の頭数(受入時)		2005年(頭数 6頭、うちBSE検査頭数 5頭)、2006年(頭数 1頭、うちBSE検査頭数 1頭)	
歩行困難牛の頭数(生体検査後)		2005年(頭数 35頭、うちBSE検査頭数 17頭)、2006年(頭数 24頭、うちBSE検査頭数 24頭)	
レンダリング(付属施設がある場合)	業務の形態(FDAのチェックシートにおける分類を転記、複数選択可)		
	1 レンダー 2 プロテイン・レンダー 3 トランスポーター 4 その他()		
	取扱い品目*1	禁止原料	☐ 全ての原料はUSDAが認可したもの
		非禁止原料	☐ 全ての原料はUSDAが認可したもの
	原料の入手先*2		
	N/A		
	製品の販売先		
	獣脂、蛋白のユーザー		
	輸送方法	原料*2	N/A
		製品	コンテナ、トラック、貨車
交差汚染対策*3	製造設備	専用ライン	
	輸送容器	専用ライン	
FDA等の査察	査察回数	□2005年 回、□2006年 回 毎年	
	結果	☐ 2005年 (違反歴無し) ☐ 2006年 (違反歴無し)	

注:米側とのミーティングにおいて、施設が特定できる情報(名称、所在地、施設番号、責任者名等)は非公表との要請があった。

施設概要

従事者数	と畜	従事者数576名(品質管理担当者数14名)	
(品質管理担当者数)	カット	従事者数1130名(品質管理担当者数37名)	
	清掃等	従事者数110名(品質管理担当者数5名)	
シフト	と畜	シフト/日(6 : 30 ~ 15 : 00)(15:30 ~ 0:00)	
(時間帯)	カット	シフト/日(5 :30 ~ 14 : 00)(14:30 ~ 23:00)	
	清掃等	シフト/日(と畜 0 : 30 ~ 6 :30)(カット 23:30 ~ 5:30)	
操業日		5~6日/週	
種類	去勢牛	有り	
	未經産牛	有り	
	経産牛	無し	
輸入牛の搬入		無 ☒ 有 ☐ カナダ・2005年5000 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年7000 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))	
		無 ☒ 有 ☐ メキシコ・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))(ただし、と畜場直行牛の受入れ無し。) ・2006年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))(ただし、と畜場直行牛の受入れ無し。)	
		☒ 有 ☐ その他第3清浄国・2005年 0頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 0 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))	
他施設からの枝肉の搬入		☒ 有 ☐ 無	
平均生体重量		587kg	
平均枝肉重量		372kg	
枝肉冷却時間		38時間	
輸出製品の種類		牛肉製品	
輸出プログラム以外の認定プログラム		無 有	
日本向け輸出プログラムの稼働体制		専用 月毎 日毎 ライン毎 ☒ シフト制 (製造日の最初)	
月齢判別方法(対日輸出実績)		出生記録 無 ☒ 有 ☐ (2005年12月~2006年1月の延べ頭数 11310頭)	
		成熟度 無 ☒ 有 ☐ (2005年12月15日~2006年1月20日の延べ頭数 3010 頭)	
		☐ 格付官総数 5名(うち日本向けA40の証明資格のある者 4名)	
受入農場(出生記録による月齢確認可能)		対日プログラム認定 ☒ 独自(PVP/QSA)	
検査官	食肉検査官	人数 34	
		配置 オンライン 30 オフライン 4	
	獣医官	人数 3	
FSISからのnon-compliance record 交付歴		2005年:BSE規制関係NR(0件)、その他のNR(件数、改善状況) 2006年:BSE規制関係NR(0件)、その他のNR(件数、改善状況)	
神経(CNS)症状牛の頭数		2005年(頭数 3頭、うちBSE検査頭数 3頭)、2006年(頭数 1頭、うちBSE検査頭数 1頭)	
歩行困難牛の頭数(受入時)		2005年(頭数 87頭、うちBSE検査頭数 87頭)、2006年(頭数 38頭、うちBSE検査頭数 38頭)	
歩行困難牛の頭数(生体検査後)		2005年(頭数 0頭)、2006年(頭数 0頭)	
レンダリング(付属施設がある場合)	業務の形態(FDAのチェックシートにおける分類を転記、複数選択可)		① レンダー 2 プロテイン・ブレNDER 3 トランスポーター 4 その他()
	取扱い品目*1	禁止原料	
		非禁止原料	油脂、血粉
	原料の入手先*2	N/A	
	製品の販売先	ペットフード工場、飼料工場	
	輸送方法	原料*2	N/A
		製品	専用の貨車、車両
	交差汚染対策*3	製造設備	牛由来原料のみを使用
		輸送容器	同上
	FDA等の査察	査察回数	☐ 2005年 回、 ☐ 2006年 回
結果		☐ 2005年(違反無し) ☐ 2006年(違反無し)	

注:米側とのミーティングにおいて、施設が特定できる情報(名称、所在地、施設番号、責任者名等)は非公表との要請があった。

施設概要

従事者数	と畜	従事者数218名(品質管理担当者数9名)
(品質管理担当者数)	カット	従事者数424名(品質管理担当者数11名)
	清掃等	従事者数58名(品質管理担当者数 名)
シフト	と畜	シフト/日(6 :15 ~ 16 : 45)
(時間帯)	カット	シフト/日(5 : 45 ~ 16 : 15)
	清掃等	シフト/日(22 :00 ~ 5 :30)
操業日		5日/週
種類	去勢牛	有り
	未経産牛	有り
	経産牛	無し
輸入牛の搬入		無 (有) □カナダ・2005年 54,518 頭/年 (うち日本向け 0 頭(延べ頭数)) ・2006年62,258 頭/年 (うち日本向け 0 頭(延べ頭数)) (無) 有 □メキシコ・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年 (うち日本向け 頭(延べ頭数)) (無) 有 □その他第3清浄国・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年 (うち日本向け 頭(延べ頭数))
他施設からの枝肉の搬入		(無) 有
平均生体重量		585kg
平均枝肉重量		360kg
枝肉冷却時間		24時間
輸出製品の種類		骨無し牛肉、骨付き牛肉、内臓
輸出プログラム以外の認定プログラム		(無) 有
日本向け輸出プログラムの稼働体制		専用 月毎 (日毎) ライン毎 シフト制
月齢判別方法(対日輸出実績)		出生記録 無 (有) (2005年12月~2006年1月の延べ頭数 4197頭) 成熟度 無 (有) □(2005年12月15日~2006年1月20日の延べ頭数 1399 頭) □格付官総数2名(うち日本向けA40の証明資格のある者 2名)
受入農場(出生記録による月齢確認可能)		対日プログラム認定 (独自(PVP/QSA))
検査官	食肉検査官	人数 13
		配置 オンライン 10 オフライン 3 (1はリリーフ)
	獣医官	人数 1
FSISからのnon-compliance record 交付歴		2005年:BSE規制関係NR(0件)、その他のNR(85件 改善済み) 2006年:BSE規制関係NR(0件)、その他のNR(41件 改善済み)
神経(CNS)症状牛の頭数		2005年(頭数 0頭、うちBSE検査頭数)、2006年(頭数 0頭、うちBSE検査頭数)
歩行困難牛の頭数(受入時)		2005年(頭数 49頭、うちBSE検査頭数 49頭)、2006年(頭数 38頭、うちBSE検査頭数 38頭)
歩行困難牛の頭数(生体検査後)		2005年(頭数 9頭、うちBSE検査頭数 9頭)、2006年(頭数 3頭、うちBSE検査頭数 3頭)
レンダリング(付属施設がある場合)	業務の形態(FDAのチェックシートにおける分類を転記、複数選択可)	(1) レンダー 2 プロテイン・ブレンダー 3 トランスポーター 4 その他()
	取扱い品目*1	禁止原料 ○ 全ての原料はUSDAが認可したもの 非禁止原料 ○ 全ての原料はUSDAが認可したもの
	原料の入手先*2	原則隣接プラントのみ
	製品の販売先	獣脂、蛋白
	輸送方法	原料*2 トラック 製品 貨車、コンテナ、トラック
	交差汚染対策*3	製造設備 専用ライン 輸送容器 専用ライン
	FDA等の査察	査察回数 □2005年 回、□2006年 回 毎年 結果 □2005年 (違反歴無し) □2006年 (違反歴無し)

注:米側とのミーティングにおいて、施設が特定できる情報(名称、所在地、施設番号、責任者名等)は非公表との要請があった。

施設概要

従事者数	と畜	従事者数280名(品質管理担当者数 名)	
(品質管理担当者数)	カット		
	清掃等	従事者数20名	
シフト	と畜	シフト/日(6:50am ~ 1:30pm)	
(時間帯)	カット		
	清掃等	シフト/日(4:00pm ~ :)	
操業日		5日/週	
種類	去勢牛	有り	
	未経産牛	有り	
	経産牛	無し	
輸入牛の搬入		無 ☒ 有 ☐ カナダ・2005年 0 頭/年 (うち日本向け 0 頭(延べ頭数)) ・2006年 18,039頭/年 (うち日本向け 0 頭(延べ頭数))	
		無 ☒ 有 ☐ メキシコ・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年 (うち日本向け 頭(延べ頭数))	
		無 ☒ 有 ☐ その他第3清浄国・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年 (うち日本向け 頭(延べ頭数))	
他施設からの枝肉の搬入		無 ☒ 有 ☐	
平均生体重量		577 kg	
平均枝肉重量		358 kg	
枝肉冷却時間		24時間	
輸出製品の種類		内臓製品	
輸出プログラム以外の認定プログラム		無 ☒ 有 ☐	
日本向け輸出プログラムの稼働体制		専用 月毎 ☒ 日毎 ライン毎 シフト制	
月齢判別方法(対日輸出実績)		出生記録 無 ☒ 有 ☐ (2005年12月~2006年1月の延べ頭数 頭)	
		成熟度 無 ☒ 有 ☐ (2005年12月15日~2006年1月20日の延べ頭数 頭)	
		☐ 格付官総数3名(うち日本向けA40の証明資格のある者 2名)	
受入農場(出生記録による月齢確認可能)		対日プログラム認定 独自(PVP/QSA)	
検査官	食肉検査官	人数 10	
		配置 オンライン 8 オフライン 2	
	獣医官	人数 1	
FSISからのnon-compliance record 交付歴		2005年: BSE規制関係NR(0件)、その他のNR(21件、改善済み) 2006年: BSE規制関係NR(1件、改善済み)、その他のNR(12件、改善済み)	
神経(CNS)症状牛の頭数		2005年(頭数:34、うちBSE検査頭数34)、2006年(頭数:14、うちBSE検査頭数14)	
歩行困難牛の頭数(受入時)		2005年(頭数:3、うちBSE検査頭数3)、2006年(頭数:3、うちBSE検査頭数3)	
歩行困難牛の頭数(生体検査後)		2005年 N/A 2006年 N/A (頭数、うちBSE検査頭数)	
レンダリング(付属施設がある場合)	業務の形態(FDAのチェックシートにおける分類を転記、複数選択可)	① レンダー ② プロテイン・レンダー ③ トランスポーター ④ その他()	
	取扱品目*1	禁止原料	肉骨粉
		非禁止原料	血粉、タロー
	原料の入手先*2		N/A
	製品の販売先		飼料工場
	輸送方法	原料*2	
		製品	貨車、トラック
	交差汚染対策*3	製造設備	専用ライン
		輸送容器	手順は文書化され、記録もトラック中に保管。
	FDA等の査察	頻度	毎年
結果		違反歴無し	

注:米側とのミーティングにおいて、施設が特定できる情報(名称、所在地、施設番号、責任者名等)は非公表との要請があった。

施設概要

従事者数	と畜	従事者数32名(品質管理担当者数3名)	
(品質管理担当者数)	カット	従事者数68名(品質管理担当者数8名)	
	清掃等	従事者数9名(品質管理担当者数2名)	
シフト	と畜	1シフト/日(: ~ :)	
(時間帯)	カット	シフト/日(: ~ :)	
	清掃等	シフト/日(: ~ :)	
作業日		5日/週	
種類	去勢牛	有り	
	未経産牛	有り	
	経産牛	無し	
輸入牛の搬入	☐ 有 ☐ カナダ・2005年 頭/年 (うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年 (うち日本向け 頭(延べ頭数))		
	☐ 有 ☐ メキシコ・2005年 頭/年 (うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年 (うち日本向け 頭(延べ頭数))		
	☐ 有 ☐ その他第3清浄国・2005年 頭/年 (うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年 (うち日本向け 頭(延べ頭数))		
他施設からの枝肉の搬入	☐ 有		
平均生体重量		652.5kg	
平均枝肉重量		405kg	
枝肉冷却時間		48時間	
輸出製品の種類		カット肉、テール、内臓	
輸出プログラム以外の認定プログラム		無 有	
日本向け輸出プログラムの稼働体制		専用 月毎 日毎 ライン毎 ☒ シフト制	
月齢判別方法(対日輸出実績)	出生記録 ☐ 無 ☒ 有 (2005年12月～2006年1月の延べ頭数10 頭)		
	成熟度 ☐ 無 ☐ 有 ☐ (2005年12月15日～2006年1月20日の延べ頭数 頭) ☐ 格付官総数 名(うち日本向けA40の証明資格のある者 名)		
受入農場(出生記録による月齢確認可能)		☒ 対日プログラム認定 独自(PVP/QSA)	
検査官	食肉検査官	人数	2
		配置	オンライン 1 オフライン 1
	獣医官	人数	1
FSISからのnon-compliance record 交付歴		2005年:BSE規制関係NR(0件)、その他のNR(0件) 2006年:BSE規制関係NR(0件)、その他のNR(0件)	
神経(CNS)症状牛の頭数		2005年(頭数 0頭、うちBSE検査頭数 0頭)、2006年(頭数 0頭、うちBSE検査頭数 0頭)	
歩行困難牛の頭数(受入時)		2005年(頭数 0頭、うちBSE検査頭数 0頭)、2006年(頭数 0頭、うちBSE検査頭数 0頭)	
歩行困難牛の頭数(生体検査後)		2005年(頭数 0頭、うちBSE検査頭数 0頭)、2006年(頭数 1頭(頸椎骨折)、うちBSE検査頭数 0頭)	
レンダリング(付属施設がある場合)	業務の形態(FDAのチェックシートにおける分類を転記、複数選択可)		1 レンダー 2 プロテイン・ブレンダー 3 トランスポーター 4 その他()
	取扱品目*1	禁止原料	
		非禁止原料	
	原料の入手先*2		
	製品の販売先		
	輸送方法	原料*2	
		製品	
	交差汚染対策*3	製造設備	
		輸送容器	
	FDA等の査察	査察回数	☐ 2005年 回 ☐ 2006年 回
結果		☐ 2005年 ☐ 2006年	

注:米側とのミーティングにおいて、施設が特定できる情報(名称、所在地、施設番号、責任者名等)は非公表との要請があった。

施設概要

従事者数	と畜	従事者数146名(品質管理担当者数 名)	
(品質管理担当者数)	カット	従事者数330名(品質管理担当者数 名)	
	清掃等	従事者数34名(品質管理担当者数 名)	
シフト (時間帯)	と畜	1 シフト/日(6 :00 ~ 2 :30)	
	カット	1 シフト/日(6 :00 ~ 2 :30)	
	清掃等	1 シフト/日(17 :00 ~ 1 :30)	
採集日		5日/週(必要であれば6日)	
種類	去勢牛	有り	
	未經産牛	有り	
	経産牛	有り	
輸入牛の搬入	無 ☒ 有 ☐ カナダ・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))		
	・2006年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))		
	無 ☐ 有 ☐ メキシコ・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))		
	・2006年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))		
輸入牛の搬入	無 ☐ 有 ☐ その他第3清浄国・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))		
	・2006年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))		
他施設からの枝肉の搬入	無 ☐ 有 ☐		
平均生体重量		562.5kg	
平均枝肉重量		346.5kg	
枝肉冷却時間		48時間	
輸出製品の種類		牛肉製品、内臓	
輸出プログラム以外の認定プログラム		無 ☒ 有 ☐	
日本向け輸出プログラムの稼働体制		専用 月毎 日毎 ライン毎 シフト制 (シフト内のロットごと)	
月齢判別方法(対日輸出実績)	出生記録 無 ☐ 有 ☒ (2005年12月～2006年1月の延べ頭数 1445頭)		
	成熟度 無 ☐ 有 ☒ (2005年12月15日～2006年1月20日の延べ頭数 3321頭)		
	☐ 格付官総数 2名(うち日本向けA40の証明資格のある者 2名)		
受入農場(出生記録による月齢確認可能)		対日プログラム認定 独自(PVP/QSA)	
検査官	食肉検査官	人数	7
		配置	オンライン5 オフライン2
	獣医官	人数	1
FSISからのnon-compliance record 交付歴		2005年:BSE規制関係NR(2件 改善済み)、その他のNR(70件、改善済み) 2006年:BSE規制関係NR(0件)、その他のNR(44件、改善済み)	
神経(CNS)症状牛の頭数		2005年(頭数 0頭、うちBSE検査頭数 0頭)、2006年(頭数 0頭、うちBSE検査頭数 0頭)	
歩行困難牛の頭数(受入時)		2005年(頭数 7頭、うちBSE検査頭数 7頭)、2006年(頭数 3頭、うちBSE検査頭数 3頭)	
歩行困難牛の頭数(生体検査後)		2005年(頭数 0頭、うちBSE検査頭数 0頭)、2006年(頭数 0頭、うちBSE検査頭数 0頭)	
レンダリング(付属施設がある場合)	業務の形態(FDAのチェックシートにおける分類を転記、複数選択可)		1 レンダラー 2 プロテイン・ブレンドラー 3 トランスポーター 4 その他()
	取扱い品目*1	禁止原料	牛肉、骨粉
		非禁止原料	牛脂、牛血
	原料の入手先*2		無し
	製品の販売先		飼料工場、ペットフード工場
	輸送方法	原料*2	無し
		製品	トラック
	交差汚染対策*3	製造設備	ライン分離
		輸送容器	
	FDA等の査察	査察回数	☐ 2005年 回、 ☐ 2006年 回 年1回
結果		☐ 2005年 } 問題無し ☐ 2006年 }	

注:米側とのミーティングにおいて、施設が特定できる情報(名称、所在地、施設番号、責任者名等)は非公表との要請があった。

施設概要

従事者数	と畜	従事者数287名(品質管理担当者数4名)
(品質管理担当者数)	カット	従事者数1164名(品質管理担当者数34名)
	清掃等	従事者数80名(品質管理担当者数1名)
シフト	と畜	1シフト/日(6 : 00 ~ 14 : 30)
(時間帯)	カット	2シフト/日(Aシフト 6 : 00 ~ 14 : 30)(Bシフト 15:15 ~ 23 : 45)
	清掃等	1シフト/日(0 : 15 ~ 6 : 00)
操業日		5,6日/週
種類	去勢牛	46%
	未経産牛	43%
	経産牛	11%
輸入牛の搬入		無 ☒ 有 ☐ カナダ 2005年 頭/年 (うち日本向け 頭(延べ頭数)) 2006年 頭/年 (うち日本向け 頭(延べ頭数)) ☒ 無 ☐ 有 ☐ メキシコ・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年 (うち日本向け 頭(延べ頭数)) ☒ 無 ☐ 有 ☐ その他第3清浄国・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年 (うち日本向け 頭(延べ頭数))
他施設からの枝肉の搬入		無 ☒ 有 ☐
平均生体重量		585.9kg
平均枝肉重量		365kg
枝肉冷却時間		24時間
輸出製品の種類		部分牛肉、内臓
輸出プログラム以外の認定プログラム		無 ☒ 有 ☐
日本向け輸出プログラムの稼働体制		専用 月毎 ☒ 日毎 ライン毎 シフト制
月齢判別方法(対日輸出実績)		出生記録 ☒ 無 ☐ 有 (2005年12月～2006年1月の延べ頭数 頭) 成熟度 ☒ 無 ☐ 有 ☐ (2005年12月15日～2006年1月20日の延べ頭数 頭) ☐ 格付官総数 2名(うち日本向けA40の証明資格のある者 2名)
受入農場(出生記録による月齢確認可能)		対日プログラム認定 独自(PVP/QSA)
検査官	食肉検査官	人数 14
		配置 オンライン10 オフライン4
	獣医官	人数 2
FSISからのnon-compliance record 交付歴		2005年:BSE規制関係NR、その他のNR 2006年:BSE規制関係NR(件数、改善状況)5件 改善3件 要請済み2件、その他のNR 47件 (改善済み)
神経(CNS)症状牛の頭数		2005年 -、2006年 -
歩行困難牛の頭数(受入時)		2005年(BSE検査頭数 43頭)、2006年(BSE検査頭数 24頭)
歩行困難牛の頭数(生体検査後)		2005年 -、2006年 -
業務の形態(FDAのチェックシートにおける分類を転記、複数選択可)		1) レンダラー 2) プロテイン・ブレンダー 3) トランスポーター 4) その他()
取扱品目*1	禁止原料	肉、骨粉、タンパク質、骨ゼラチン
	非禁止原料	血粉、可食部、牛脂
原料の入手先*2		無し
製品の販売先		
輸送方法	原料*2	無し
	製品	トラック、鉄道
交差汚染対策*3	製造設備	ライン分離
	輸送容器	検査、記録、保存
FDA等の査察	査察回数	☐ 2005年 回、 ☐ 2006年 回 ランダムな抜き打ち検査
	結果	☐ 2005年 } 問題無し ☐ 2006年 }

注: 米側とのミーティングにおいて、施設が特定できる情報(名称、所在地、施設番号、責任者名等)は非公表との要請があった。

施設概要

従事者数	と畜	従事者数 名(品質管理担当者数3名)
(品質管理担当者数)	カット	従事者数 名(品質管理担当者数4名)
	清掃等	従事者数 名(品質管理担当者数4名)
シフト	と畜	シフト/日(6 :30 ~ :)
(時間帯)	カット	シフト/日(6 :00 ~ :)
	清掃等	シフト/日(17 :00 ~ :)
操業日		6日/週
種類	去勢牛	90%
	未経産牛	10%
	経産牛	0%
輸入牛の搬入	☐ 有 ☐ カナダ ・2005年 頭/年 (うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年 (うち日本向け 頭(延べ頭数))	
	☐ 有 ☐ メキシコ・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年 (うち日本向け 頭(延べ頭数))	
	☐ 有 ☐ その他第3清浄国・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年 (うち日本向け 頭(延べ頭数))	
他施設からの枝肉の搬入		☐ 有
平均生体重量		585kg
平均枝肉重量		375.8kg
枝肉冷却時間		2日
輸出製品の種類		牛肉
輸出プログラム以外の認定プログラム		無 ☒ 有
日本向け輸出プログラムの稼働体制		専用 月毎 ☒ 日毎 ライン毎 シフト制
月齢判別方法(対日輸出実績)		出生記録 ☐ 有 (2005年12月~2006年1月の延べ頭数 頭)
		成熟度 ☐ 無 ☒ 有 (2005年12月15日~2006年1月20日の延べ頭数 頭)
		☐ 格付官総数2名(うち日本向けA40の証明資格のある者 2名)
受入農場(出生記録による月齢確認可能)		対日プログラム認定 独自(PVP/QSA)
検査官	食肉検査官	人数(と畜)
		配置(カット)
	獣医官	人数
FSISからのnon-compliance record 交付歴		2005年:BSE規制関係NR(1件、改善済み)、その他のNR(29件、改善済み) 2006年:BSE規制関係NR(1件、改善済み)、その他のNR(10件数、改善済み)
神経(CNS)症状牛の頭数		2005年(頭数 0頭、うちBSE検査頭数 0頭)、2006年(頭数 0頭、うちBSE検査頭数 0頭)
歩行困難牛の頭数(受入時)		2005年 (50頭、うちBSE検査頭数 50頭)、2006年 (50頭、うちBSE検査頭数 28頭)
歩行困難牛の頭数(生体検査後)		2005年 -, 2006年 -
レンダリング(付属施設がある場合)	業務の形態(FDAのチェックシートにおける分類を転記、複数選択可)	
	取扱い品目*1	禁止原料
		非禁止原料
	原料の入手先*2	
	製品の販売先	
	輸送方法	原料*2
		製品
	交差汚染対策*3	製造設備
		輸送容器
	FDA等の査察	査察回数
結果		

注:米側とのミーティングにおいて、施設が特定できる情報(名称、所在地、施設番号、責任者名等)は非公表との要請があった。

施設概要

従事者数	と畜	従事者数 562名(品質管理担当者数 18名)
(品質管理担当者数)	カット	従事者数 1,051名(品質管理担当者数 30名)
	清掃等	従事者数 100名
シフト	と畜	2シフト/日(6:30~15:00, 15:30~00:00)
(時間帯)	カット	2シフト/日(6:00~14:30, 15:00~1:30)
	清掃等	と畜(00:45~6:00)、カット(00:30~5:30)
操業日		6日/週
種類	去勢牛	有り
	未経産牛	有り
	経産牛	無し
輸入牛の搬入		無 (有 ☐ カナダ・2005頭 /年 (うち日本向け 0頭(延べ頭数)) ・2006年 ≤1000頭/年 (うち日本向け 0頭(延べ頭数)) 無 (有 ☐ メキシコ・2005年 頭/年(うち日本向け 0頭(延べ頭数)) ・2006年 ≤10000頭/年 (うち日本向け 0頭(延べ頭数))(ただし、と畜場直行牛の受入れ無し) ☒ 有 ☐ その他第3清浄国・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年 (うち日本向け 頭(延べ頭数))
他施設からの枝肉の搬入		☒ 有
平均生体重量		544~590kg
平均枝肉重量		340~386kg
枝肉冷却時間		36~48時間
輸出製品の種類		骨無し牛肉及び内臓
輸出プログラム以外の認定プログラム		無 有
日本向け輸出プログラムの稼働体制		専用 月毎 日毎 ライン毎 ☒ シフト制
月齢判別方法(対日輸出実績)		出生記録 ☒ 無 有 (2005年12月~2006年1月の延べ頭数 頭) 成熟度 ☒ 無 有 ☐ (2005年12月15日~2006年1月20日の延べ頭数 頭) ☐ 格付官総数 4名(うち日本向けA40の証明資格のある者 4名)
受入農場(出生記録による月齢確認可能)		対日プログラム認定 独自(PVP/QSA)
検査官	食肉検査官	人数 30
		配置 オンライン 28名 オフライン 2名
	獣医官	人数 3名
FSISからのnon-compliance record 交付歴		2005年:BSE規制関係NR(0件)、その他のNR(122件、改善済み) 2006年:BSE規制関係NR(4件、改善済み)、その他のNR(86件、改善済み)
神経(CNS)症状牛の頭数		2005年(0頭)、2006年(0頭)
歩行困難牛の頭数(受入時)		2005年(36頭、うちBSE検査36頭)、2006年(49頭、うちBSE検査49頭)
歩行困難牛の頭数(生体検査後)		
レンダリング(付属施設がある場合)	業務の形態(FDAのチェックシートにおける分類を転記、複数選択可)	1) レンダー 2) プロテイン・ブレNDER 3) トランスポーター 4) その他()
	取扱品目*1	禁止原料 肉骨粉、ゲルボーン 非禁止原料 油脂、血粉
	原料の入手先*2	施設内パッカー
	製品の販売先	ペットフード工場、飼料工場
	輸送方法	原料*2 製品 貨車及び車両
	交差汚染対策*3	製造設備 各施設ごとに製造~出荷ラインは専用化 輸送容器 貨車及び車両を検査・クリーニング
	FDA等の査察	査察回数 ☐ 2005年 回、 ☐ 2006年 回 年に1回 結果 ☐ 2005年 (違反歴無し) ☐ 2006年 (違反歴無し)

注:米側とのミーティングにおいて、施設が特定できる情報(名称、所在地、施設番号、責任者名等)は非公表との要請があった。

施設概要

従事者数	と畜	従事者数 500名(品質管理担当者数 8名)
(品質管理担当者数)	カット	従事者数 1,200名(品質管理担当者数 38名)
	清掃等	従事者数 名(品質管理担当者数 名)
シフト	と畜	2シフト/日(8時間)
(時間帯)	カット	2シフト/日(8時間)
	清掃等	7時間
操業日		5~6日/週
種類	去勢牛	有り
	未経産牛	有り
	経産牛	無し
輸入牛の搬入		☐ 有 ☐ カナダ・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ☐ 有 ☒ メキシコ・2005年1万~5万頭/年(うち日本向け 0頭(延べ頭数))(ただし、と畜場直行牛の受入れ無し) ・2006年 頭/年(うち日本向け 0頭(延べ頭数)) ☐ 有 ☐ その他第3清浄国・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))
他施設からの枝肉の搬入		☒ 有
平均生体重量		535kg
平均枝肉重量		340kg
枝肉冷却時間		36時間
輸出製品の種類		ボックス牛肉、内臓、肝臓
輸出プログラム以外の認定プログラム		無 ☒
日本向け輸出プログラムの稼働体制		専用 月毎 日毎 ライン毎 シフト制(シフトの開始時に実施)
月齢判別方法(対日輸出実績)		出生記録 ☐ 有 (2005年12月~2006年1月の延べ頭数 頭) 成熟度 ☐ 有 ☐ (2005年12月15日~2006年1月20日の延べ頭数 頭) ☐ 格付官総数 4名(うち日本向けA40の証明資格のある者 4名)
受入農場(出生記録による月齢確認可能)		対日プログラム認定 独自(PVP/QSA)
検査官	食肉検査官	人数 28
		配置 オンライン 22 オフライン 6
	獣医官	人数 3
FSISからのnon-compliance record 交付歴		2005年:BSE規制関係NR(0件)、その他のNR(65件、改善済み) 2006年:BSE規制関係NR(0件)、その他のNR(27件、改善済み)
神経(CNS)症状牛の頭数		2005年(0頭)、2006年(0頭)
歩行困難牛の頭数(受入時)		2005年(22頭、うちBSE検査22頭)、2006年(15頭、うちBSE検査15頭)
歩行困難牛の頭数(生体検査後)		2005年(23頭、うちBSE検査0頭)、2006年(71頭、うちBSE検査0頭)
業務の形態(FDAのチェックシートにおける分類を転記、複数選択可)		① レンダー ② プロテイン-ブレンダー ③ トランスポーター ④ その他()
取扱い品目*1	禁止原料	肉骨粉
	非禁止原料	血液、ゲルボーン、タロー
原料の入手先*2		N/A
製品の販売先		ペットフード工場、飼料工場
輸送方法	原料*2	N/A
	製品	鉄道、トラック
交差汚染対策*3	製造設備	すべてのラインは分別されている。
	輸送容器	記載され文書化された清掃方法
FDA等の査察	査察回数	1回/年
	結果	すべて問題無し

注:米側とのミーティングにおいて、施設が特定できる情報(名称、所在地、施設番号、責任者名等)は非公表との要請があった。

施設概要

従事者数	と畜	従事者数 600名(品質管理担当者数 8 名)
(品質管理担当者数)	カット	従事者数 2,000名(品質管理担当者数 40名)
	清掃等	従事者数 195名
シフト	と畜	2シフト/日(6:19~14:49, 15:19~23:49)
(時間帯)	カット	2シフト/日(6:04~14:34, 15:04~23:34)
	清掃等	00:00~6:00
操業日		6日/週
種類	去勢牛	有り
	未經産牛	有り
	経産牛	無し
輸入牛の搬入		☐ 有 ☐ カナダ・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))
		☐ 有 ☒ メキシコ・2005年 頭/年(うち日本向け 0頭(延べ頭数))(ただし、と畜場直行牛の受入れ無し) ・2006年 頭/年(うち日本向け 0頭(延べ頭数))(ただし、と畜場直行牛の受入れ無し)
		☐ 有 ☐ その他第3清浄国・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))
他施設からの枝肉の搬入		☐ 有
平均生体重量		543 kg
平均枝肉重量		344 kg
枝肉冷却時間		48時間
輸出製品の種類		Primals, Sub Primals, Variety Meats
輸出プログラム以外の認定プログラム		無 ☒ 有
日本向け輸出プログラムの稼働体制		専用 月毎 ☒ 日毎 ライン毎 シフト制
月齢判別方法(対日輸出実績)		出生記録 ☐ 無 ☒ 有 (2005年12月~2006年1月の延べ頭数 頭)
		成熟度 ☐ 無 ☒ 有 ☐ (2005年12月15日~2006年1月20日の延べ頭数 3216 頭)
		☐ 格付官総数 8名(うち日本向けA40の証明資格のある者 8名)
受入農場(出生記録による月齢確認可能)		対日プログラム認定 独自(PVP/QSA)
検査官	食肉検査官	人数 32
		配置 オンライン 28 オフライン 6
	獣医官	人数 4
FSISからのnon-compliance record 交付歴		2005年:BSE規制関係NR(1件、改善済み)、その他のNR(76件、改善済み) 2006年:BSE規制関係NR(2件、改善済み)、その他のNR(38件、改善済み)
神経(CNS)症状牛の頭数		2005年(19頭、うちBSE検査19頭)、2006年(12頭、うちBSE検査12頭)
歩行困難牛の頭数(受入時)		2005年(0頭)、2006年(0頭)
歩行困難牛の頭数(生体検査後)		2005年(67頭、うちBSE検査19頭)、2006年(45頭、うちBSE検査12頭)
レンダリング(付属施設がある場合)	業務の形態(FDAのチェックシートにおける分類を転記、複数選択可)	① レンダー ② プロテイン・ブレンダー ③ トランスポーター ④ その他()
	取扱品目*1	禁止原料 50%肉骨粉、低タンパク質肉骨粉
		非禁止原料 タロー、非食用タロー、ゼラチンボーン
	原料の入手先*2	
	製品の販売先	飼料工場
	輸送方法	原料*2
		製品 鉄道、トラック
	交差汚染対策*3	製造設備 専用施設
		輸送容器
	FDA等の査察	査察回数 1回/年
		結果 合格

注:米側とのミーティングにおいて、施設が特定できる情報(名称、所在地、施設番号、責任者名等)は非公表との要請があった。

施設概要

従事者数	と畜	従事者数 623名(品質管理担当者数 24名)
(品質管理担当者数)	カット	従事者数 1,509名(品質管理担当者数 68名)
	清掃等	従事者数 180名
シフト	と畜	2シフト/日(6:20~15:10, 15:40~23:00)
(時間帯)	カット	2シフト/日(6:00~14:30, 15:00~23:00)
	清掃等	23:00~5:00
操業日		5~6日/週
種類	去勢牛	有り
	未經産牛	有り
	経産牛	無し
輸入牛の搬入		☒ 有 ☐ カナダ・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ☐ 有 ☒ メキシコ・2005年121,592頭/年(うち日本向け 0頭(延べ頭数))(ただし、と畜場直行牛の受入れ無し) ・2006年 13,064頭/年(うち日本向け 0頭(延べ頭数))(ただし、と畜場直行牛の受入れ無し) ☐ 有 ☐ その他第3清浄国・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数)) ・2006年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))
他施設からの枝肉の搬入		☒ 有
平均生体重量		567kg
平均枝肉重量		352kg
枝肉冷却時間		36時間
輸出製品の種類		骨無し牛肉、骨付き牛肉、内臓
輸出プログラム以外の認定プログラム		無 ☒ 有
日本向け輸出プログラムの稼働体制		専用 月毎 日毎 ライン毎 ☒ フット制
月齢判別方法(対日輸出実績)		出生記録 ☒ 有 (2005年12月~2006年1月の延べ頭数 頭) 成熟度 ☒ 有 ☐ (2005年12月15日~2006年1月20日の延べ頭数 頭) ☐ 口格付官総数 7名(うち日本向けA40の証明資格のある者 7名)
受入農場(出生記録による月齢確認可能)		対日プログラム認定 独自(PVP/QSA)
検査官	食肉検査官	人数 32
		配置 オンライン 30 オフライン 2
	獣医官	人数 2
FSISからのnon-compliance record 交付歴		2005年:BSE規制関係NR(3件、改善済み)、その他のNR(179件、改善済み) 2006年:BSE規制関係NR(1件、改善済み)、その他のNR(52件、改善済み)
神経(CNS)症状牛の頭数		2005年(0頭)、2006年(0頭)
歩行困難牛の頭数(受入時)		2005年(23頭、うちBSE検査2頭)、2006年(11頭、うちBSE検査11頭)
歩行困難牛の頭数(生体検査後)		2005年(57頭、うちBSE検査0頭)、2006年(45頭、うちBSE検査0頭)
レンダリング(付属施設がある場合)	業務の形態(FDAのチェックシートにおける分類を転記、複数選択可)	☒ 1 レンダー ☒ 2 プロテイン・プレレンダー ☒ 3 トランスポーター ☐ 4 その他()
	取扱い品目*1	禁止原料 特定施設からの生原料
		非禁止原料 特定施設からの生原料
	原料の入手先*2	N/A
	製品の販売先	タロー及びタンパク質使用者
	輸送方法	原料*2 N/A
		製品 トレーラー、コンテナ
	交差汚染対策*3	製造設備 分離
		輸送容器 分離
	FDA等の査察	査察回数 1回/年
		結果 適合

注:米側とのミーティングにおいて、施設が特定できる情報(名称、所在地、施設番号、責任者名等)は非公表との要請があった。

施設概要

従事者数	と畜	従事者数 800名(品質管理担当者数 13名)
(品質管理担当者数)	カット	従事者数 1,500名(品質管理担当者数 94名)
	清掃等	従事者数 80名(品質管理担当者数 3名)
シフト (時間帯)	と畜	2シフト/日
	カット	2シフト/日
	清掃等	1シフト/日
操業日		6日/週
種類	去勢牛	有り
	未経産牛	有り
	経産牛	無し
輸入牛の搬入	有	口カナダ・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))
		・2006年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))
	有	口メキシコ・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))
		・2006年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))
	有	口その他第3清浄国・2005年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))
		・2006年 頭/年(うち日本向け 頭(延べ頭数))
他施設からの枝肉の搬入	有	
平均生体重量		590kg
平均枝肉重量		385kg
枝肉冷却時間		36~48時間
輸出製品の種類		牛肉
輸出プログラム以外の認定プログラム	有	
日本向け輸出プログラムの稼働体制		専用 月毎 日毎 ライン毎 ③フト制
月齢判別方法(対日輸出実績)	出生記録	無 ④ (2005年12月~2006年1月の延べ頭数 6717頭)
	成熟度	無 ④ 口(2005年12月15日~2006年1月20日の延べ頭数 9744頭)
		口格付官総数7名(うち日本向けA40の証明資格のある者 7名)
受入農場(出生記録による月齢確認可能)		対日プログラム認定 ④独自(PVP/QSA)
検査官	食肉検査官	人数 32
		配置 オンライン 26 オフライン 6
	獣医官	人数 2
FSISからのnon-compliance record 交付歴		2005年:BSE規制関係NR(3件、改善済み)、その他のNR(86件数、改善済み) 2006年:BSE規制関係NR(0件)、その他のNR(31件、改善済み)
神経(CNS)症状牛の頭数		2006年(2頭、うちBSE検査2頭)
歩行困難牛の頭数(受入時)		2005年(70頭(CNSを含む)、うちBSE検査70頭)、2006年(44頭、うちBSE検査44頭)
歩行困難牛の頭数(生体検査後)		2005年(7頭、うちBSE検査0頭)、2006年(6頭、うちBSE検査0頭)
レンダリング(付属施設がある場合)	業務の形態(FDAのチェックシートにおける分類を転記、複数選択可)	
	① レンダー ② プロテイン・レンダー ③ トランスポーター ④ その他()	
	取扱い品目*1	禁止原料 肉骨粉、ゲルボーン
		非禁止原料 油脂(食用タロー、非食用タロー)、血粉
	原料の入手先*2 施設内パッカー	
	製品の販売先 ペットフード工場、飼料工場等	
	輸送方法	原料*2 N/A
		製品 貨車及び車両
	交差汚染対策*3	製造設備 各施設ごとに製造~出荷ラインは専用化
		輸送容器 貨車及び車両を検査・クリーニング
FDA等の査察	査察回数	□2005年 回、□2006年 回 (過去2回及び2005年12月)
	結果	□2005年 違反歴無し □2006年

注:米側とのミーティングにおいて、施設が特定できる情報(名称、所在地、施設番号、責任者名等)は非公表との要請があった。